

自立支援局だより

第41号 2019. 12発行

第40回 リハ並木祭

支援企画課 関 由紀夫

令和元年 10月19日に第40回リハ並木祭を開催しました。

天候が心配な中、例年どおり大勢の来場者に恵まれ、にぎやかな催しになりました。「いつも娘の幼稚園の遠足と同じ日程で残念だったけれど、ようやく今年は来ることができました」という来場者もいらして、この催しが、回を重ねるごとに地域に根ざした祭典として、定着してきたことを強く感じました。

グルメストリートには、多くの模擬店が並び、講堂では、地域団体の民謡と津軽三味線のライブや、国リハ軽音部の並木祭 LIVE2019、国リハコレクション 2019 ファッションショーや、東京サロンオーケストラの演奏が行われました。

体育館では、車いすバスケットボールやツインバスケットボール、ウィルチェアーラグビー、ゴールボールのデモンストレーションや体験会を行い、障害者スポーツを身近に感じていただくことができました。訓練棟では、あん摩体験コーナーやボッチャ体験コーナーが人気を集めました。このように、会場のあちこちで、利用者が地域の方々との触れ合いに昂揚する場面や、国リハと職リハのOBやOGが職員や友人との再会を懐かしむ場面などが見受けられるアットホームな催しになりました。

この行事に先だって、4月下旬から国リハと職リハの利用者と職員からなる「リハ並木祭実行委員会」が日々の訓練の一環として、ポスターの作成から企画・運営全体に関わる準備を行ってきました。



地域団体皆様の多大な協力のもとに、今回も華やかなイベントを実施できる運びになり深く感謝いたします。

この催しでの和やかな出会いと触れ合いが、「広がる和、繋がる輪」という今年のテーマのように、一人一人の利用者と地域の方々との繋がりを深め、障害者の社会参加の輪が広がる機会になれば幸いです。



利用者さんの声

東京サロンオーケストラをバックに熱唱！



自立訓練（視覚）山本 龍也さん

自立訓練（視覚）大内 龍成さん

今回のリハ並木祭で、楽しみにしていた東京サロンオーケストラの方々と共演させていただき、私たちは「Let it go ～ありのままで～」という曲をオーケストラをバックに歌いました。午前に行われたリハーサルでは、二人の息がなかなか合わず、本番で上手くいくかととても不安でした。けれど、オーケストラの方々が和やかな雰囲気を作ってくださり、練習の時やリハーサルの時以上に納得のいく歌を気持ちよく大勢の方々へ届けることが出来ました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

リハ並木祭に参加して

自立訓練（視覚）永島 史恵さん

他の訓練生の皆さんと職員の方に手助けしていただいて、準備期間からとても楽しくリハ並木祭に参加することができました。今回の自立訓練（視覚）部門で私は、音声パソコンを活用した「占い」と「なぞかけ」を担当させていただき、たくさんの方たちと触れ合うことができ、心から嬉しく思いました。ありがとうございました。



リハ並木祭に参加して

自立訓練（視覚）山下 万寿さん

今回、第40回リハ並木祭に参加できたことを大変うれしく思いました。「文化祭」と呼ばれるイベントに参加すること、しかも作り手として参加することが人生の中で初めてだったので、貴重な経験をさせていただいたと思います。個人的には、軽音部のボーカルとして参加できたことは、歌を歌うことが好きな自分としてはすごく嬉しい経験でした。

また、所属する自立訓練（視覚）での出し物では、自分の普段の訓練成果をご来場のたくさんのお客様に体験していただき、すごく満足できるイベントでした。このような経験ができたことを糧とし、今後の人生においてプラスにして行きたいと思った次第です。



◆ リハ並木祭 来場者数 ◆

令和元年	平成 30 年	平成 29 年
850名 (前年比 -60)	910名 (前年比 +3)	907名 (前年比 +26)

天候の悪い中、今回も多くの方にお越しいただきました。
ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



自立訓練（生活訓練）O・Kさん（写真左）

今年の生活訓練課では、国リハでも初めての企画のボッチャ体験をしました。お客様も200名近く来てくださり、とにかく楽しめました。ボッチャ体験の仕事は、午前中で終わったので、お昼ご飯を少し早めに食べ終わって自由時間を過ごしました。午後は、体育館で車いすバスケットを見て、勉強になりました。途中で、姉が来たため、抜けさせてもらって、一緒に見てまわりました。

午後2時から、東京サロンオーケストラが来て、指揮をしました。指揮の違いによって、演奏の雰囲気も違うんだなと実感しました。生オケもやっていましたが、どれも心に残るものばかりでした。

この日は、一日楽しむことができました。



自立訓練（生活訓練） 竹内さん（前ページ写真右）

リハ並木祭では、ボッチャ体験をしました。僕が接客をした時間帯は、リハ並木祭が始まってから間もなかったため、人は少なかったですが、後半から人がどんどんボッチャ体験に入ってきました。人がたくさん来てくれてとても嬉しかったので、来年もまたやりたいと思いました。

東京サロンオーケストラコンサートでは、オーケストラの前で指揮をしました。学校で指揮をした時の緊張感とは違い、とても緊張しました。

どちらもとても楽しかったです。

リハ並木祭を終えて

就労移行支援 川西 健太郎さん

作業系訓練では空気砲を担当し、サービス系訓練ではシミ当てクイズを担当しました。準備期間中はルールを覚えるのが難しくて、何回も練習しました。

アルバイトや働いた経験もないので、当日うまくできるかと不安でしたが、それぞれ障害が違う人たちが、できることを役割分担してかかわれて、勉強になりました。

当日は、想像以上にお客さんが入ってきてくれました。8年前は、自分も小学生だったので、子どもたちと楽しく遊べたこと、また、午前も午後もしフトで忙しかったですが、多くの人に自分のしたことを喜んでもらえたこと、卒業生や子どもたちなど、幅広い層の方たちに参加してもらえてよかったと思います。

来年は、自分がどこにいるかも分かりませんが、もし、少しでも時間があったら、OBとして参加したいと思っています。



就労移行支援課の訓練内容をご紹介します

就労移行支援課 主任職業指導専門職 寺本 和正

就労移行支援では

今回は、主に身体障害、高次脳機能障害のある方への就労移行支援についてご紹介します。就労移行支援では、必要な知識・技能を提供し、実践的な訓練を行っています。潜在能力を引き出すことと代償手段を活用することにより、働くための能力の向上を図ることで、職業人としての自立と社会参加の促進を目指します。

各訓練室の訓練内容は次のとおりです。

作業系（事務補助、簡易作業）

当センター内の各部署から仕事を教材として提供してもらい、訓練を行っています。職場に必要なルールの習得や正確な作業への取り組みを身につけます。具体的な作業は、当センターの発行誌の発送用封筒作り、事務消耗品の物品管理やネームプレートなどの製作、簡易組立などを行っています。新たな取り組みとして、花を育ててセンターに飾る花リース作業も行っています。種から育ててメンテナンスまで行います。利用者の皆さんは、責任を持って取り組んでいます。



サービス系（クリーニング）

隣接する当センター病院などの白衣、シーツ、タオルなどを教材として提供してもらい、集荷し、実際に仕上げてお届けします。サービス系訓練（クリーニング）を通じて、チームで協力して作業に取り組む力を身につけます。これは、どの仕事においても必要な力です。終了者の方々は、クリーニング会社だけではなく、他にも様々な職種や職場へ就労し、活躍しています。



事務系

キーボード操作、インターネットの活用などのパソコンの使い方や伝票チェック、データエントリー、文章入力訓練などの実務を想定した基本的な訓練を行っています。また、検定試験対策や当センター内の各部署から受注した仕事などを行い、スキルアップを図っています。パソコンに触れた経験のない方への就労支援のみならず、転職や復職に向けた必要なパソコン操作の支援など、個々のスキルと目標に応じた訓練を行っています。



新カリキュラムについて

理療教育・就労支援部

理療教育課長 柴原 繁俊

国民のあん摩マッサージ指圧やはり、きゅうに対する関心と期待が高まり、施術の多様性が見られる中、施術者に対しても高い知識や技術及び倫理観が求められるようになりました。このような状況に応えるため、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」の一部が改正され、平成 29 年 4 月 1 日から施行されました。これに伴い、平成 30 年 4 月にカリキュラムの改正を行い、当該年度の新規利用者から総単位（時間）数、各学年における科目内容及び科目間連携、実習科目の配分等を考慮し、科目の学年配当及び 1 単位当たり時間数の一部を変更しました。変更の概要は以下のとおりです。

1. 総単位数及び総授業時間数は、専門課程は 3 年間で 93 単位 2,700 時間を 100 単位 2,850 時間に、高等課程は 5 年間で 127 単位 4,505 時間を 137 単位 4,875 時間にする。
2. 人文科学概論にコミュニケーションを、解剖学Ⅰに運動学を、医療概論に社会保障制度及び職業倫理を、理療臨床医学各論に病態生理学を、東洋医学臨床論にあはきの適応の判断を、臨床診察学及び臨床取穴学に生体観察を、あま指応用実習Ⅱ及びはき応用実習Ⅱに臨床実習前試験等をそれぞれ含める。

3. あはきの理論については、あま指の歴史と理論、はりきゅうの歴史と理論として配当する。
4. 各センターの特色を活かすため、専門課程に選択科目を設置し、当センターにおいては 3 年次にパソコン等の情報教育の推進を図るための理療情報活用（2 単位）を配置し、高等課程においても、同様に 2 年次に 1 単位配当する。
5. 生理学、衛生学・公衆衛生学、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、関係法規の配当学年や時間数を変更する。

新たなカリキュラムの導入により、これまで以上に利用者に対する指導の充実を図り、業界及び患者のニーズに応えられる臨床技術力の高い施術者の養成を目指していききたいと思います。

注)

『あはき』… あん摩マッサージ指圧、
はり、きゅう

『あま指』… あん摩マッサージ指圧

『はき』…… はり、きゅう



利用者募集のご案内

視覚障害のある方の自立した生活に向けて

自立訓練（機能訓練）

視覚障害により日常生活や就労等を目指す上で困っていること等がある方に対し、白杖を使用した歩行訓練や日常生活訓練、学習や就労等で活用可能な音声パソコン、録音機器等の操作方法習得のための訓練等を提供しています。

就労移行支援（養成施設）

国家資格である「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師」の資格取得を目指し、授業（講義、実技実習、臨床実習等）の提供の他、資格取得後の就労に向けた支援を提供しています。

頸髄損傷等の方の自立した生活に向けて

自立訓練（機能訓練）

主に頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方が地域や家庭、職場などで補装具や自助具の活用や環境を調整することによりできる動作を身につけ、より充実した社会生活を送ることができるよう、理学療法、作業療法、リハビリテーション体育、職能訓練等の訓練を提供しています。

高次脳機能障害のある方が自分らしく暮らすために

自立訓練（生活訓練）

高次脳機能障害に伴う記憶障害、注意障害、遂行機能障害等による生活課題に対し、メモリーノート等の代償手段の活用によりスケジュール管理等の生活能力を高められるよう、個々の生活状況に応じて支援します。個別又は集団で訓練を提供しています。

障害のある方の「働きたい」を支援します

就労移行支援

就労が見込まれる主に身体に障害のある方、高次脳機能障害のある方、発達障害のある方に、一般就労や復職に向けて、就労のための技能習得（事務、作業等）及び模擬的な職場体験訓練を提供しています。就職活動に向けては、職場見学や職場実習の他、履歴書の作成や面接練習なども実施し、面接会の同行等の就職活動も支援しています。

※遠方のため通所で上記サービスを利用することが困難な方には、施設入所支援（宿舎）を提供しています。あわせてご相談ください。

<問い合わせ先> 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 総合相談課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL：04-2995-3100（代表） FAX：04-2992-4525（直通）

E-mail：rehab-soudan@mhlw.go.jp URL：http://www.rehab.go.jp/

※利用相談は平日（月～金 8:30～17:15）受け付けています。

※施設利用申込書（様式）は当センターホームページからダウンロードできます。

